



TAKT Dice Cube J

¥110,000 (ペア) **〈SPEC〉** ●寸法: H55×W55×D55mm ●重量: 350g/台
●付属品: 滑り止め用・ビュアシリコンシート×2

オーディオの世界に満ちた彼は、その理由のひとつがスタンダードにあることに気づいたのだ。T. M. Dの知識を使って個人的にスピーカーカースタンドを設計し、一気に10モデルをリリースしたのがすべての始まり、つまりTAKTブランドの誕生であった。音楽を司る指揮棒IIタクトシュトゥクからの命名で、そのディストリビューターを庵氏が始めたのは

震耐震理論のエンジニアリングを学ぶ、数々の実績によりT. M. D (チューンド・マス・ダンパー) という制振理論の専門家としての地位を確立。産学連携によって、橋やビル、超高速鉄道などにおける風の影響に特化したデザ

イン会社を起している。このT. M. Dは、日本ではレインボーブリッジやスカイツリーのような大規模な事業で用いられているそうだ。同時にジェロームは熱烈なオーディオマニアでもあるという。自身のスピー

国内第一弾として発売される2製品は、彼の理論をオーディオアクセサリに応用したものだ。その名も、「Dice Cube J」と「Cube J」。Jというのは、日本のユーザー向きに作られたことから冠せられたらしい。これらは、放射特性調整器(サウンド・ラディエーション・アジャスター:S. R. A)という今までになかった方式を用いている。手持ちのスピーカーの良さはそのままに、スピーカーの姿形に関係なく、スピーカーの音をアップグレードするアイテムだ。具体的には、キャビネットの存在そのものがドライバーユニットに及ぼす影響を抑えることで、ドライバー本来の能力を引き出す画期的なアクセサリとなる。そもそもスピーカーメーカーが設計するユニットは、ユニット単体として100%の能力が発揮できるよう設計されている。だが、キャビネットに収まっている以上、エッジやパツフル面の影響によるリスニングポイントでの音質劣化、例えばスピード感に差が出たり、エネルギーにムラが出たり、と



Dice Cube Jの各面には、それぞれ複数の穴が空いている。穴の中は全て角度や深さが異なり、それがキャビネットによる放射音の影響を抑えてくれるのだ。写真左の上面に空いている穴は本来底面であり、この穴によって自身の振動も防ぐことができる

いうことは避けられない。そこで、スピーカーからの放射音自体を改善させるのが、S. R. Aの役割なのだ。個々に解説していくが、「独自の形状」がこうした悪影響を最小化する仕組みとなっている。「Dice Cube J」は、スピーカーの天板に設置するキューブ状のモデルだ。1辺55mmのサイコロ状で質量は350g。精密加工された超々ジュラルミン製ボディに、角度や深さの違

本記事で試聴するのは、
韓国のアクセサリーブランド「TAKT」より発売された、
放射特性調整器という肩書をもつ2つの製品。
これらは、設置するだけで
キャビネットの存在に起因する
ドライバーユニットへの悪影響を
最小限に抑えることが出来るという。
一見するとシンプルとも思える
このデザインの内側に、
どのような秘密を隠しているのか。
それを紐解いていきたい。



●問い合わせ先: タクトシュトゥク Tel.042-316-9517

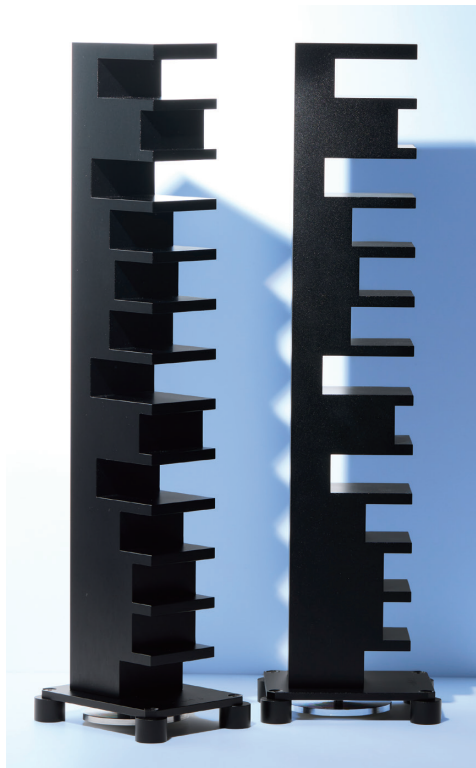
TAKT発 惚れ込んだシステムの良さをそのままに クォリティアップを実現する 魔法のアイテム

●執筆 | 林 正儀 ●写真 | 松永 睦



本試聴はオーディオ評論家の林 正儀氏に依頼し、本誌試聴室にて行なった

今回はアクセサリーの試聴取材だと聞いて本誌の試聴室に足を運んでみると、スピーカーになんとも不思議な物体がセットされているのが目についた。この黒いキューブと縦長形状のアクセサリーが、今回の取材対象。タクトシュトゥクが新たに取り扱いを開始した、TAKT (タクト) という韓国のブランドより発売された製品である。まずは同社のバックボーンとオーナー兼CEOであるジェローム・キム氏について紹介しよう。
タクトシュトゥク代表の庵 吾朗氏曰く、ジェローム・キムは「現在でも大学で教鞭をとる、理論の固まりのような人」とのこと。名門高麗大学で免



TAKT Cubit J ¥275,000 (ペア)

(SPEC) ●寸法：H440×W95×D120mm ●重量：3.45kg/台 ●付属品：アルミ合金ベース×2 (カーペットなどへの設置時に使用/H5×W134×D158mm)

う穴がいくつも設けられており、キャビネットによる放射音への影響を抑制する。底面に空いている穴は、自身の振動を止めるためのもの。特に高域ユニットに対して大きく作用するが、中低域にも十分な効果があるという。

「Cubit J」は、スピーカー内側の床面へ設置する縦長形状のモデルだ。低域ユニットへの効果を重視しており、高さが440mmある。本体は、こちらも超々ジュラルミン製。底面および脚部には2024アルミニウム合金を使用し、精密加工による立体構造を備えている。また底面には5052アルミニウム合金製のT.M.D制振機構を搭載し、本モデル自体の振動も

排除した。専用設計のマシンによる精密加工に加えアノダイズ処理（アルマイト）も施すなど、高精度さに驚かされた。高級な質感ももち合わせており、これでペア27・5万円はハイコストパフォーマンスといえる。

フォステクス RS-2 with NW-2で聴く
音抜けの向上に留まらず、鮮度の高いクリアーな音に激変

それでは、試聴に移る。まずは本誌試聴室のリファレンススピーカーであるフォステクスの大型3ウェイで試そう。最初にTAKT製品無しの状態での試聴、次に高域用のDice Cubeと低域用のCubitを個別に

ポリプロピレンコーンのダブルウーハーと底面のバスレフポートが特徴的で、僅かにスラントさせている。

エポスの音はスマートな外観どおり洗練されている。引き込まれるように奥の深い立体的な定位と、明快なタッチが現代スピーカーらしい。クセがなく実にナチュラルな音調だ。キャビネットの精度も高く、TAKTそれぞれの効果が聴き分けやすいのがメリットだ。

Dice Cubeを乗せると、高音や倍音成分が伸びて声のつながりがよりスムーズになった。弦合奏ときれいにハモっており、瑞々しさが一層際立つ感じだ。一音一音の分離がよく、シルクのように粒だつてくれる。クラシック再生は絶妙だ。エポスはもとものと明瞭で音のつながりも良いため、そ



スピーカーへの設置風景。Dice Cube Jはキャビネットの上に載せ、ツイーターの真上に合うように配置。Cubit Jも、キャビネットに触れないようにして、バツル面と正面を合わせる

セットし、最後に2つとも置いたらどのような変化が生まれるのか、3段階で試聴する。

試聴CDは北欧ジャズと幸田浩子のアリアだ。本試聴室のフォステクスは聴きなれているが、Dice Cubeを天板にセットした途端、いきなりサウンドが激変したので驚いてしまった。音場全体が静かなのにリズムが立ち、音のぬけが一気に向上。声の瑞々しさにも思わず耳をもっ

ていかれた。大音量でピリつきみだつたソプラノが、嘘のように滑らかに

なったのだ。中音域にかけても実に心地よくバランスが保たれ、従来のアクセサリーでは体験しえない効果だ。次に、Cubit単独ではどうか。設置はキャビネットに接触しないぎりぎりの前面ツライチだ。前面から放射された特性が隙間を通ることによって、キャビネットの影響から開放されるという。これは、設計思想通りウーハーの音域がのびる。低音の出方が厚くなると同時に、高鮮度でクリアーになった感触だ。厚くなれば音もボケがちになつてしまうものだが、Cubitの効果で痛快な締めまりを出してくる。そ

を委ね、音楽の愉しみと心地よさを味わいながら、「ここまでできたか」と感嘆した。

延長戦として、エポスとTAKTシステムで高音質レコードも聴いてみた。私も録音に立ちあつた、ウラジミール・シヤフラーノフのダイレクトカットティン

グ収録だ。これは、ブレイヤーの演奏をそのまま同時同録音でラッカー盤にカットしていく。極めて鮮度の高い45回転盤である。目の醒めるような高域の伸びっぷりだが、TAKTを使うとDレンジまでグンと拡張され眼前に生演奏が展開する。「懐かしのストックホルム」は哀愁のメロディが心に染み込んだ。ピアノパートではリズムミカルにテンポが変化し、快調にアドリブが展開。ウッドベースの圧倒的な実在感が基本となる、そこに自由奔放なピアノが弾かれる。良い感じでドラムがスイングするのが最高だ。

TAKT製品は理論もハイレベルかつ独創的だし、初めて経験する「放射特性調整」による音質改善効果に感嘆した。スピーカーから放射された後の音を処理する「ディフューザー」とは、発想が違う。スピーカー自体の放射特性を整えるDice Cube J/C



Cubit Jの底面には、本製品自体に発生する振動を抑えることを目的とした円形の5052アルミニウム合金が取り付けられているが、これがT.M.D機構の正体なのだ

の反作用で、中域以上まで見通しよく感じられた。クラシックでは低弦のブーンという響きがすっきりして、空間そのものまで変わる印象だ。最後は2つの製品をダブルで設置。相乗効果により、S.R.Aの効果により一層効いてきた。有害とされるキャビネットそのものが消えたよう、ユニットからダイレクトに活力が湧いてくる印象だ。

エポス RS-28Nで聴く
S/Nや解像度の向上で
瑞々しさが一層際立ち、
空間全体が繋がっていく感覚に

折角なので、スピーカーを変えてもしっかりと効果があるのかを実験してみよう。今回はTAKT同様にタクトシユトック扱いのエポス RS-28Nで追加試聴を行なった。当ブランド初となる3ウェイ・トルボーイだ。

ubit Jの威力は恐るべきもので、未体験ゾーンといえそうだ。

特筆すべきは、惚れ込んだシステムの良さを一切そぎ落とさず、大きくクオリティアップしてくれる点だろう。これは庵氏が力説している点で、高級スピーカーがさらに魅力的な愛機になると感じた次第。

価格的には、ペア200万円級のスピーカーがTAKTとベターマッチすると思われるが、もちろん下でもOKだし、上はハイエンドまで際限がない。B&Wやタンノイ、YGにマジコの愛用者がいることも納得できた。耳からウロコの体験を、是非多くの読者にして欲しいものだ。

